

アオサギ観察会

2018年5月18日

兄弟の損得

4月下旬にヒナが生まれてから約ひと月。ヒナたちの食欲は今が一番旺盛です。ある報告によると、親鳥が一度にヒナに与えるエサの量は約250g。くちばしサイズの魚で16、7尾というところでしょうか。それを兄弟で分け合って…、ということにはもちろんなりません。ヒナが小さいうちは十分な量のエサでも、生後3週間もすればすぐに足りなくなります。そう



なるとこれはどうしたって大きいもの勝ち。大きく育った兄や姉がエサを独占し、小さな末っ

子にはほとんど何も行き渡りません。少しでも食べようとすると、年長の兄弟たちからたちまち袋叩きにされてしまいます。当然、末っ子はいつまでも小さいまま。左の写真の兄弟はちょっと極端な例ですが、小さな末っ子から見ると年長の兄弟たちはまるで巨大な怪物です。



けれど、そんな恐ろしい兄や姉たちも、時には頼りになることがあります。右の写真は4週目に入ったばかりのヒナ。この時期になると親鳥が巣を離れはじめ、ヒナたちだけで留守番することが多くなります。そうなるのを待ってましたとばかり必ず現れるのがハシブトガラス（下の写真の不気味な黒い影）。毎年毎年かなりの数のヒナたちがガラスの犠牲になっ



ています。ただ、ヒナたちは自分

たちよりひとまわり大きなガラス相手に、少しも怯むことなく必死に抵抗します。その際、真っ先に身体を張って立ち向かうのが年長の兄弟たちなのです。だから、ガラスの犠牲になるのはいつも大きい順。生まれるのが遅いとエサにありつけず、かと言って早く生まれるとガラスを相手にしなければならない。まだほんの子供なのに、なんとも過酷な世界です。

